# TELEGRAM BOT

## 実行結果通知

© HelpSystems LLC. All rights reserved.
All trademarks and registered trademarks are the property of their respective owners.

# 目次

概要 ..... 3
必要要件 ..... 4
AUTOMATE タスクのインポート方法 ..... 6
「実行結果通知」の実行方法 ..... 7
付録 A –実行結果通知の例 ..... 9
付録 B – トラブルシューティング ..... 11

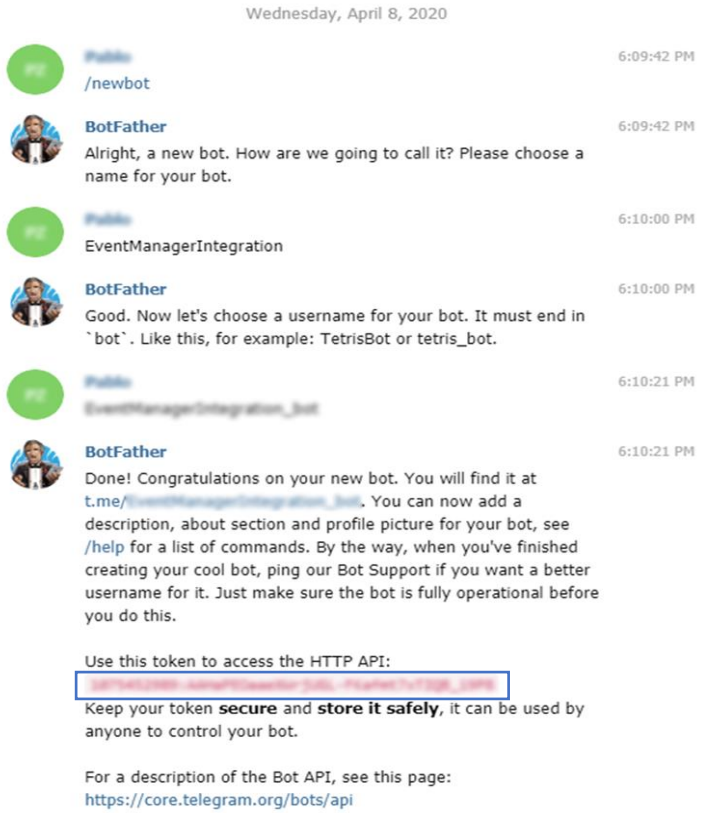
## 概要

この How to ガイドでは、「Telegram Bot - 実行結果通知」をご紹介します。繰り返しの多い手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに AutoMate に任せて、RPA による自動化で IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate の支援により、ボットが手作業を代行することで反復作業を大幅に減らし、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

***Telegram Bot - 実行結果通知***は、Telegram Bot API（HTTP ベースのインターフェース）をベースにしています。**sendMessage** メソッドを使用して、特定の Telegram **チャット ID** にカスタム通知/メッセージを送信します。ワークフロー内で使用することができ、タスクやワークフローの名前、メッセージの種類（成功または失敗）、失敗の場合の原因を設定することができます。これにより、組織内の重要な自動化プロセスの実行結果を常に把握することができます。

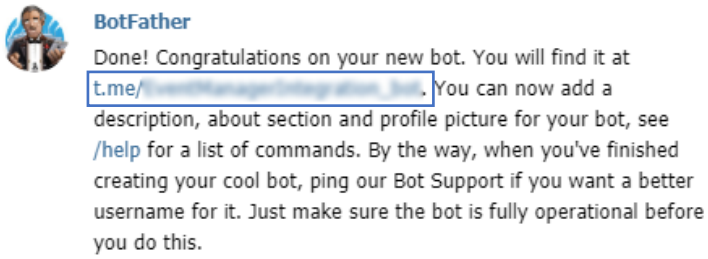
## 必要要件

- AutoMate: Zendesk ボットは動作に AutoMate を必要とします。最低限サポートされているバージョンが以下の通りです。
    - Automate Ultimate 11.2
    - Automate Plus 11.2
    - Automate Desktop 11.2
- AutoMate Markup Language file (.AML): Telegram ボットタスクのステップを含む AutoMate で使用される主要なファイル形式
- Telegram: 最低限必要なものは以下の通りです
    - Telegram Bot created and Token: 新しいボットを作成するには、BotFather と新しい Telegram 会話を開始し、作成ウィザードを開始するための「/newbot」コマンドを送信し、いくつかの簡単なステップに従う必要があります。 Telegram ボットを設定する際、固有の認証トークンを取得します。詳細な情報は、次の Telegram のリンクから入手できます。以下は作成手順の一例です。




- Telegram Chat ID: 通知メッセージを送信したいチャットセッションの ID を表します。次の手順で取得することができます:

  a. BotFather から提供されたリンクをクリックします。




  b. ここで、「開始」をクリックして、Bot との会話を開始します。人と会話しているように、Telegram のインターフェースに会話が表示されます。

  c. https://api.telegram.org/bot_MYTOKEN_/getUpdates, にアクセスし、_MYTOKEN_を BotFather が Bot 作成後に送信したトークンに置き換えます。

d. チャット ID は、"chat":{"id. "の後になります:

{"ok":true,"result":[{"update_id":[redacted],
"message":{"message_id":3,"from":
{"id":[redacted],"is_bot":false,"first_name":"[redacted]","last_name":"[redacted]","language_co
de":"en"},"chat":
{"id":[redacted],"first_name":"[redacted]","last_name":"[redacted]","type":"private"},"date":15
86363165,"text":"Hello, this is test message sent by myself via the web browser"}}]}

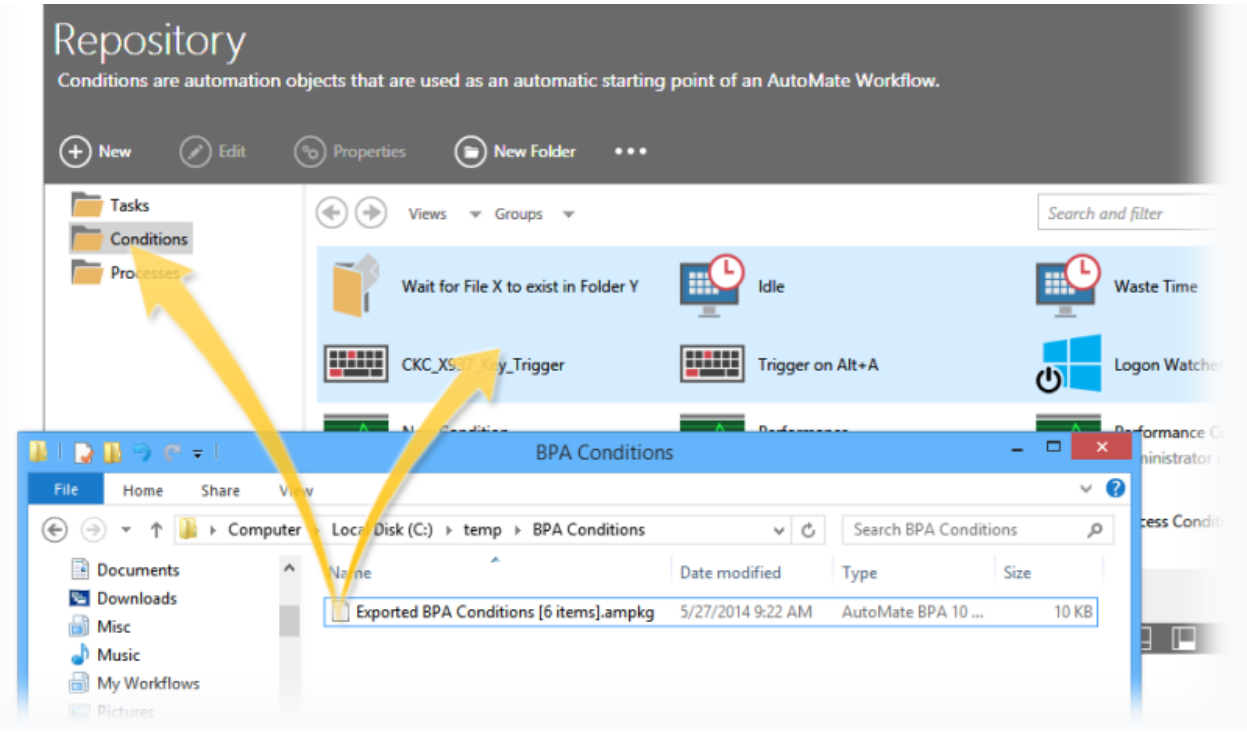
- Telegram の接続値を設定するために作成する定数を自動化:
  - const_TelegramBotToken: 以前取得した Telegram Bot Token
  - const_TelegramChatID: 以前取得した Telegram 内のチャットの ID

## AutoMate タスクのインポート方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでレポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソールから[レポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。

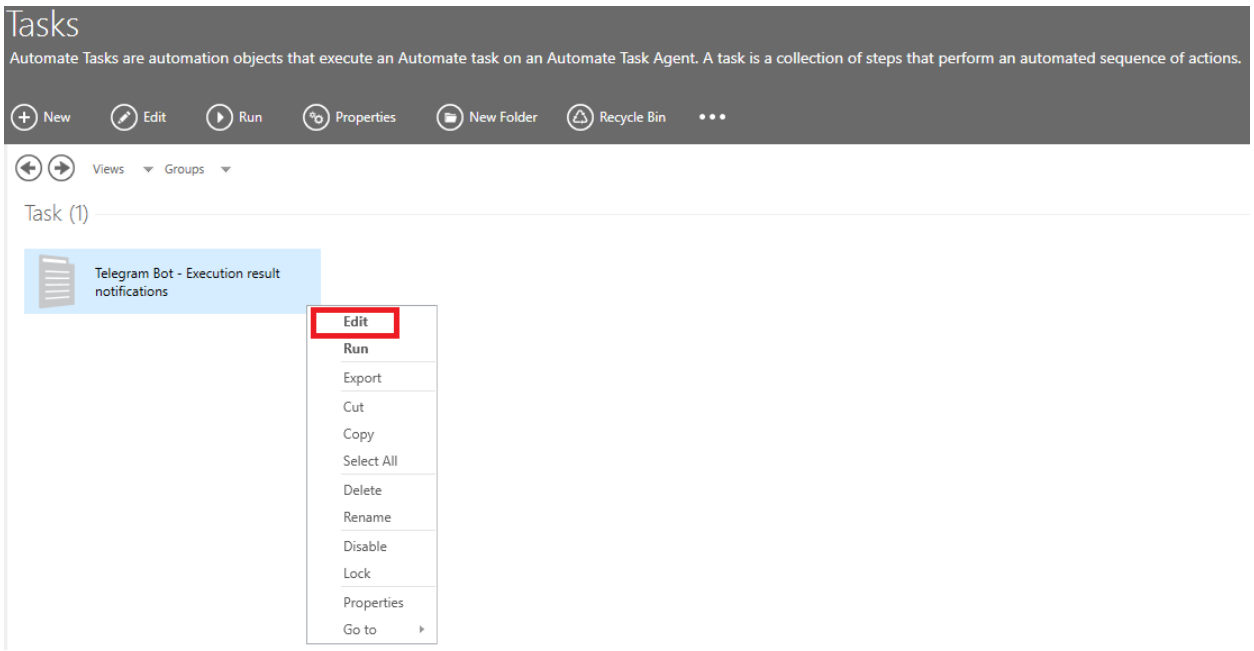



## 「Telegram Bot - 実行結果通知」の実行方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、「編集」を選択して編集します。



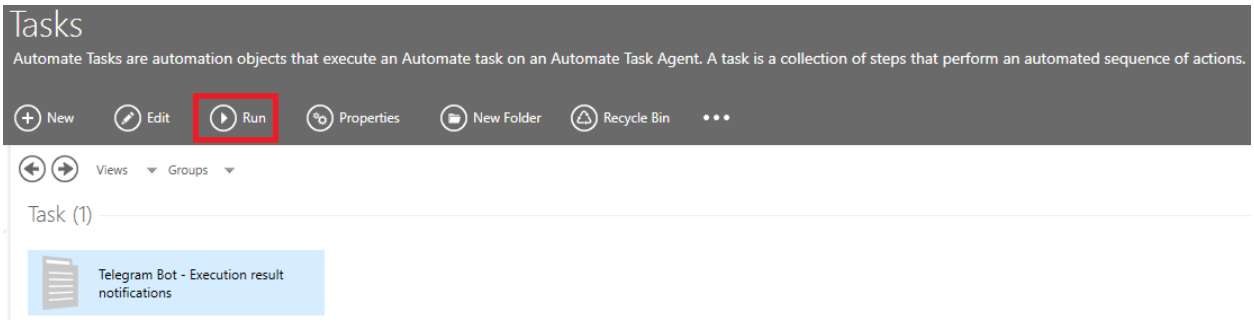

ステップ2では、希望する出力に合わせて次の変数を編集してください:

- var_WorkflowName: タスク内で実行されたワークフロー名。デフォルトでは、GetWorkflowName() 関数を使用して、自動的に取得します。
- var_TaskName: 実行されたタスクの名前。デフォルトでは GetTaskName() に設定され、自動的に取得されます。
- var_Execution_Result: 実行結果。送信するメッセージの重大度タイプに応じて、SUCCESS または FAILURE に設定することができます。.
- var_Execution_Critical_Message: 実行に失敗した場合のエラー原因のテキストです。

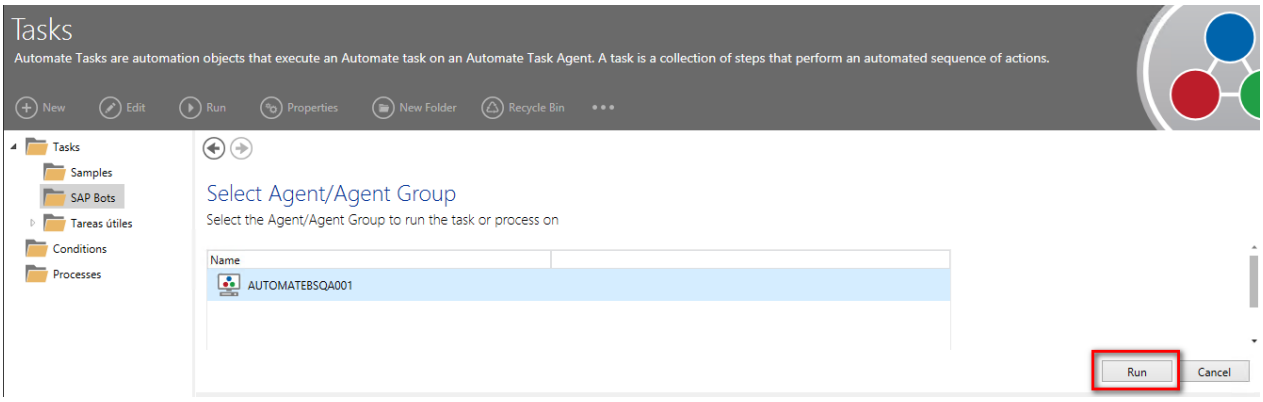
注意：これらの変数は、共有変数を使用することにより、ワークフロー内で動的に設定することができます。

タスクを保存して閉じる

タスクを選択し、「実行」をクリック

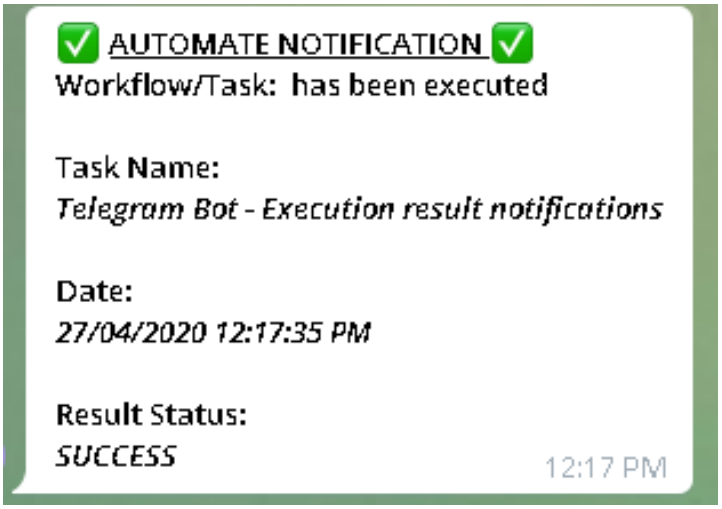



エージェントを選択し、再度「実行」をクリックします。

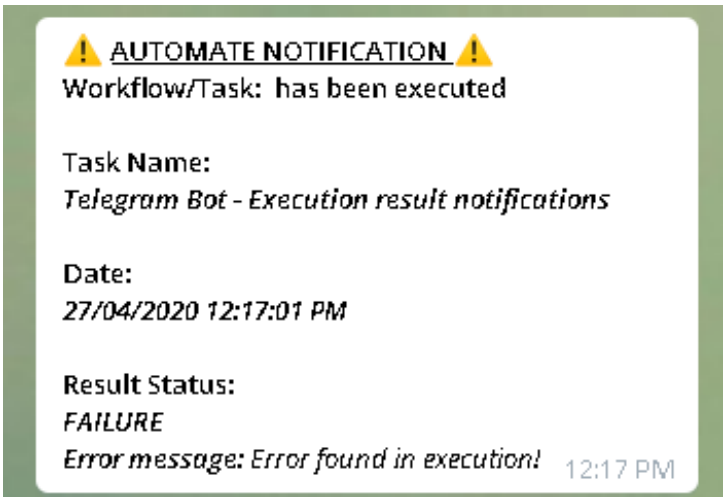



## 付録 A –実行結果通知の例

実行に成功した場合:




実行に失敗した場合:



# 付録 B – トラブルシューティング

- ログ: 実行毎に、トラブルシューティングのためボットはログファイルを作成します。 ログファイルは C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>に保存されます。デフォルトでは、タスク名は *Telegram Bot - Execution result notifications.*

www.helpsystems.com

**About HelpSystems**
Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and Automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people